

何を読み取るべきか？

「五 音楽作品における意味」

(pp.97-101, 便宜的段落番号 28 - 34)

- この部分は何を示すことを意図して書かれた部分か？
- なぜ渡辺は、他にもなく、アルバン・ベルク作曲『抒情組曲』(1925-26)の第6楽章を題材に選んだのか？
- 『トリスタン』引用におけるベルク自身の個別的意図(A)とは？

アルバン・ベルク作曲『抒情組曲』(1925-26)の第6楽章、ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』からの旋律引用部。

Alban Berg (1885-1935, vienna) 《Lyric Suite》.

参考 『トリスタン』の旋律： Youtube「Richard Wagner - "Tristan und Isolde", Prelude」 動画冒頭の旋律。

参考 ベルクによる引用： Youtube「Secession Quartet - Alban Berg: Lyric Suite」動画の 29:30～、30:45～ 辺りに聞かれる。

- 渡辺は、聴き手が『トリスタン』引用に対して、具体的に、どのような個別的意図(B)を了解するだろうと考えているか？
- なぜ聴き手は、個別的意図(B)を了解可能とし得るのか？ その了解までの過程は？
- 本来『トリスタン』の旋律は多様に解釈することもできる。しかし、なぜ聴き手は、他ならぬ個別的意図(B)のみを了解するのか？
- 聴き手が了解した『トリスタン』引用の〈意味〉について、なぜ〈グライスが定義した意味〉と同じであると渡辺は考えるのか？
- 〈日常会話のコミュ〉と〈藝術作品のコミュ〉とでは、受け手が〈意味を了解する〉という点で、どのような仕組みの違いがあるか？
- 便宜的段落数 34 (p.101 R.11)で、結局、渡辺は何を言いたかったのか？